

Julieta Quilodrán

*Niveles de Fecundidad y Patrones de Nupcialidad en México*

El Colegio de México, 1991, 244pp

今日、途上国の出生力の問題が世界の人口問題のなかでも重要な意味をもっている。それは、周知のとおり、地球総人口の抑制が唱えられるなかで、今後21世紀にかけて人口増加の大部分が途上国で占められるという予測によっても明らかである。しかし、途上国でも出生力低下に一定の成果を上げた地域・国とそうでない諸国とがあり、出生力の転換に多様性がみられることも事実である。人口転換を遂げた、あるいは成果を収めつつある途上国の要因分析は、そうでない他の諸国に政策的インプリケーションを与えるものとなる。

こうした途上国の出生力の要因分析には個票データを用いたマイクロ分析が有効であるといわれる。本書は、メキシコにおける「世界出生力調査 (WFS)」のデータ、すなわち、メキシコ全国の15歳から49歳までの女子7,300人を対象とする個票データに拠って、「結婚と出産」の分析を行った実証研究である。データ自体はやや古い、同調査がこの種の調査では恐らく初めての全国調査である。メキシコの人口研究者が全国サンプルの個票データに基づいたマイクロ分析による実証研究を一冊の書物にすることも本書が先駆けであろう。さらに、調査実施の1976年は、政府が本格的に人口問題に取り組み始めた頃でもある(一般人口法制定, 1974年)。ソービーの言説に「人口の動きは、時計の針のようにゆっくりと動く」とあり、「社会の変化は、人口の動きを考慮に入れると、なるほどと思うことが少なくない(速水)」のであって、この論稿も調査後15年を経過して研究成果が刊行されているが、その後の社会変動の実態にひきつけて、改めて本書を読んでみるとそれはそれで興味深いものがある。

同書は全5章から構成され、最初の3章はそれぞれ国全体、市町村の人口規模別、そしてメキシコの8つの地域別に表記のデータを用いた婚姻、出生の分析にあてられている。その結果、世代別の初婚年齢、就業、教育水準など社会経済的要因の分析から出生力の地域間格差が観察され、国内でも人口転換過程の段階は多様であることが明らかにされている。とくに、出生力水準に与える女性の教育のもたらす効果の重要性を指摘している。

4章では、法律婚、法律宗教婚および事実婚の婚姻タイプ別に、世代別の初婚年齢をはじめ婚姻に関する指標の特徴が分析されている。最後の5章では、4章を踏まえて、さらに宗教婚を加えた婚姻形態過程別に出生力の分析を試みている。著者は、長年婚姻形態と出生力の差異に関する研究を行ってきたが、本書の中心課題もここにあり、出生力の水準決定要因のひとつとしての近接要因変数、とくに出生率低下が始まった時期の結婚、避妊に焦点をあて分析を行っている。

著者は、婚姻タイプ別の出生率を、婚姻状態で経過した時間は妊娠の可能性にさらされた時間と事実上同一であるとの仮定から出発して、各婚姻形態の出生率に観察された差異は、婚姻状態で平均経過時間に指摘される差異にあてはめることができると評価した。しかし、これらの条件のもとで、著者の提示する分析は、たとえ、出生率の差異が実際に婚姻状態で経過した時間にみられる差異と一致しているにせよ、それが評価されるものとなるための仮説を本書では確認することができない。なぜなら、婚姻状態で生活した時間および婚姻年数という視点での出生率の測定をより精度にするには、婚姻形態のタイプによって出生率(の低下)に果たす役割が明らかにされねばならないと考えるためである。

出生力の要因分析は、「何回か同じ調査を繰り返して時系列的に観察するか、あるいはコーホートの追跡して観察しないと厳密な意味での要因、そして効果はわかりにくい(ロイド)」といえる。メキシコでは、ここで扱われた世界出生力調査以降にも本書の刊行以前に、保健省、国家人口審議会などの「人口調査 (Encuesta de Demografía, 1982年)」や「人口保健調査 (DHS, 1986年)」をはじめとして継続的に、出生力関係の調査が実施されており、併せて用いればよりきめ細かい分析が可能であったといえ、時系列縦断的に個票データが利用できなかったものか残念である。

しかし、いずれにせよ年3.5%から1%台にまで人口増加率が低下し人口転換に一応の成果を上げたメキシコの事例を、出生率低下が始まった時期の調査データを用い、出生力抑制要因としての近接要因変数の分析を中心にした実証研究として、公表時期の遅れにも増して本書のもつ意義は大きいといえる。また、今日人口転換を達成していない南西アジア、サハラ以南アフリカ諸国の人口研究や人口政策に示唆をあたえるものである。巻末にある参考文献リストはメキシコ人口研究の基本的な文献が網羅されており研究の一助となる。 (西岡八郎)